

だいわ 地域センター 通信 第5号



三原市社会福祉協議会

発行 平成23 (2011) 年6月

社会福祉法人三原市社会福祉協議会

大和地域センター

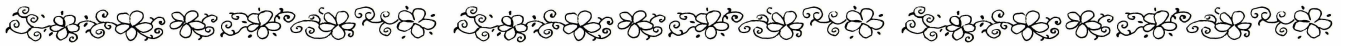
〒729-1321

三原市大和町和木1538-1

(大和保健福祉センター内)

TEL : (0847) 34-1214

FAX : (0847) 35-3020



見て！僕もできるようになったよ！

～次の世代にも伝えてね “昔の遊び” ～

ひと雨降るごとに、春に向かって、少しずつ近づいていく…。

そんな四温の雨降る日、上徳良コミュニティセンターにて、神田東小学校の3・4年生14名と信影地区のふれあい・いきいきサロン『いい加元サロン』との交流会がありました。

交流会では、お手玉やメンコ、こま回し、まりつき、ぶんぶんごま、おはじき等、昔の遊びを通して交流を行いました。大人も子どもも、これらの遊びに一緒になって夢中になり、汗をかきながらの交流会となりました。



ぶんぶんゴマを二人で引っ張ります。ナイスタイミング！

ぶんぶんごまに初めて挑戦した児童は、「最初はできなかったけど、何度もやっていたらできるようになって嬉しかったです。」と話していました。初めて知った昔の遊びに挑戦し、遊び方を習得する子どもたちもたくさんいたようです。サロン担い手の方々も、「自分たちが50～60年前にしていたコマ回し等の遊びが、今でも伝わっていることを知ってとても嬉しかったです。次の世代にも伝えてもらいたいです。」と話され、子どもも大人も遊びをとおして嬉しい気持ちになった、交流会となりました。



メンコで対戦！！
気合いを入れて「パチンッ！」

おもちでつながれ！地域の輪

～ 「稲作体験活動」から ～

蒸し上がったお米からあたたかい湯気がたちあがります。そのお米を手早くこね、あっという間にお餅につきあげていきます。昔からの方法で、臼と杵を使ってのお餅つき体験です。



和木地域では、毎年、地区社協を中心に、地域の老人会や女性会、ボランティアグループの方々等と協力し、小学校の児童、先生と一緒に一年を通して稲作体験を行っています。田植えから始まり、稲刈り、稲こぎ、そして、その集大成としてこの時期、餅つき大会を開催しています。今年からはこれらの地域活動を、若い世代の方々にも知ってほしいと、小学児童の保護者の方々にも参加していただき、全ての世代が参加しての地域交流となりました。

伝統文化を継承すると同時に、米作りの大変さや食べ物の大切さを身をもって体験する良い機会となっています。また、児童と地域の方々が交流することにより、地域内の安全にもつながっています。児童と地域の方が顔見知りになることで、登下校中の声かけ・見守りにもつながります。地域交流活動から様々な効果が生まれているようです。



「丸め方にもコツがあるんよ」と色々なことを教えてもらいます。

ついたお餅は、ぜんざいやきなこ餅にして美味しくいただきました。また、和木地域の独居高齢者の方々へ児童の皆さんから丸餅をプレゼントされました。



地域福祉のススメ。



“サロンの創り方研修会”を開催しました

～「できないこと」より「できること」を聞いてみて！～



去る3月26日土曜日に、『サロンの困った！を解決します』と題して、大和町のふれあい・いきいきサロンと地区社会福祉協議会の合同研修会を開催しました。講師には、株式会社アイリーの酒井保氏をお招きし、社協職員だった当時、サロンを通して地域の人と関わりそこで生まれた感動ストーリーを、「支え合い」をテーマにお話しいただきました。

「支え合い」とは、まずは“自分でがんばる”そしてできないところを“助けてもらう”ことであり、最初から“してもらふこと”ではないということ。その人自身を認める、尊重するということが「支え合い」の根底にあるということをお話いただきました。

参加された方々からは、「支え合うということを勘違いしていたと思う。」「発想の転換ができました。」「今までサロンというものを、型にはめて考えすぎていたのだと感じました。」等、肩に入った力が少し楽になったという感想を多くいただきました。

「サロンに出てこれない人をどうしたら…」という多くのサロンの悩みにも、「その地域にサロンがあることで、『出てこれない人がその地域にいる。』そのことに気づけたことが収穫。気づけたことで関心をもつ。その人に関心をもっておくことが大切。」と話され、参加者一同、大きくうなずかれていました。

以前より、サロン担い手の方々から、今後ますます進むであろう高齢化に不安を感じていることをお聞きしていました。今日のサロン研修会で、その不安が、前に向かって一歩ふみだすパワーの源に変わることを願っています。



頭の体操もしました。いとも簡単に行う講師に対して、出来ない人多数でした(笑)。

「常設サロンひよりや榎梨」祝2周年

平成22年12月で、常設サロンひよりや榎梨は開設から2年を迎えます。そこで、常設サロンひよりや榎梨開設2周年記念の会を行おうと、地域福祉ボランティアくわのみ会が中心となり、お祝いの会が行われました。お祝いの会では、これまでに行ってきた活動の紹介をしようとして、常設サロン内に各活動コーナーを設け、地域の方々に常設サロンで行われている活動の体験をしていただきました。

常設サロンに人が集い、おしゃべりをしたり、人とふれあったりすることで、地域の様子がわかり、そこから今地域に必要な活動がみえてくる。そういった地域作りの中心、拠点となる場所です。今後もひきつづき、皆様のあたたかいご支援をお願いします。



手芸作品の展示



そばを打ち、会食しました



もちよりの農作物やお漬け物等の即売会も行いました。



ものづくり&囲碁・将棋コーナー



絵手紙体験コーナー



お菓子&食事づくりのコーナー

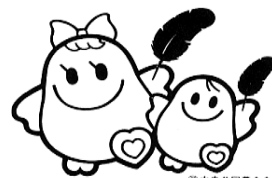


皆様のご協力はこんな形で地域に役立っています。

大和地域センター通信でご報告させていただきましたこれらの事業は、皆様からご協力いただきました共同募金一般配分金や社会福祉協議会会費、寄付金等を財源として広く活用させていただいています。

社協会費の納入、戸別募金や法人募金又寄付金は社協の自主財源として、地域の事業推進のために有効に活用させていただきます。

愛ちゃん と 希望くん



©中央共同募金会